

那覇港だより

な は みなと

令和5年（2023年）3月 第28号

目 次

【特集記事】

那覇港地方港湾審議会の開催について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

【那覇港トピックス】

小学校社会科見学の受入について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

約3年ぶりにクルーズ船の受入を再開！・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

「沖縄大交易会 2022」にて PR ブースを出展しました！・・・・・・・・・・ 6

新たなクルーズバースについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

那覇港湾内での不発弾処理について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

那覇港地方港湾審議会の開催について



島しょ県である沖縄県は、物流の約99%を海上輸送に依存しております。中でも那覇港は沖縄県を出入りする貨物の大部分（公共取扱貨物では約68%（令和2年））を取り扱う、沖縄県で最も重要かつ最大の拠点港湾です。

一方、平成15年の那覇港港湾計画の改訂以降、那覇港を取り巻く社会情勢は大きく変化しており、概ね20年～30年先の長期的視野に立った総合的な港湾空間のあり方を示す、新たな「那覇港長期構想」を令和4年4月に策定しました。

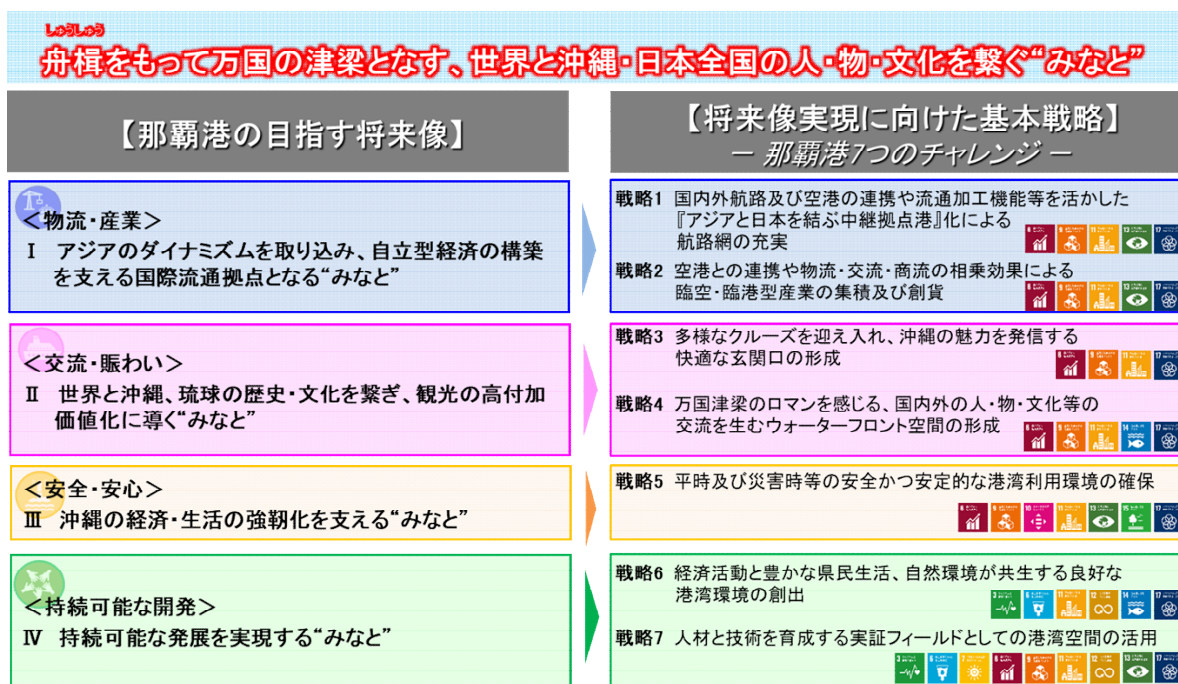


那覇港地方港湾審議会の様子（R5.2.7）

那覇港管理組合では、当該長期構想の道行きとして、10年～15年後に目指す内容を取りまとめた那覇港港湾計画（改訂）等について、令和5年2月7日に那覇港地方港湾審議会に諮問し、審議の結果、「諮問のとおり異議無し」と答申を頂きました。

今後、那覇港港湾計画（改訂）については、計画（案）を国土交通大臣へ提出し、交通政策審議会港湾分科会の意見を聴くとともに、省令で定める基準との適合等の観点から内容を確認し、その結果を那覇港管理組合に通知することとなっており、通知を受けた後は、令和4年度中に港湾計画の概要を公示する予定としております。

<那覇港長期構想及び港湾計画の**基本理念**及び**目指す将来像**、**7つの基本戦略**>

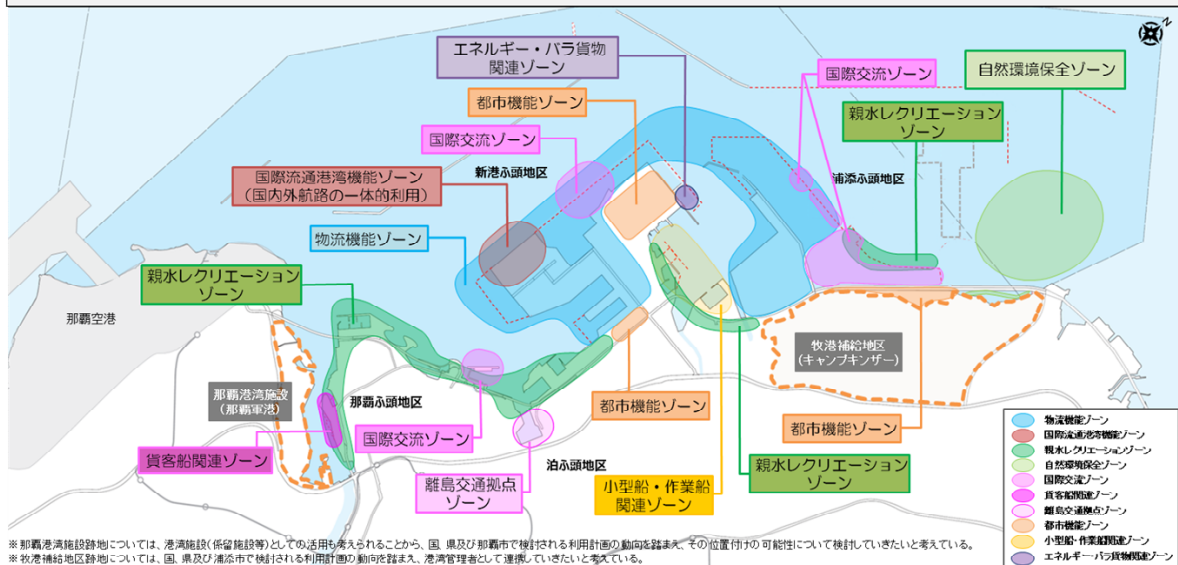


＜那覇港港湾計画（改訂）における港湾空間形成の主な考え方＞



＜那覇港港湾計画（改訂）における港湾空間のゾーニング（空間利用計画）＞

- ▶ 物流機能の中心は、引き続き新港ふ頭と浦添ふ頭として、2つのふ頭の一体的、かつ効率的な利用を図る。
- ▶ クル ズ船や大型クル ーズ等の受入に対応する国際交流ゾ ンは、泊ふ頭、新港ふ頭、浦添ふ頭に配置。
- ▶ 物流機能の持ち燃料等の危険物やバラ貨物を扱うゾーンは新港ふ頭北側に配置。
- ▶ 周辺離島航路の拠点は引き続き泊ふ頭とし、那覇ふ頭は貨客船関連ゾーンとする。
- ▶ 親水レクリエーションゾーンを、那覇ふ頭から新港ふ頭の入口部分、新港ふ頭北側から浦添ふ頭の入口部分までの連続的な水際線に加え、浦添ふ頭に南北に長く配置。
- ▶ 浦添ふ頭北側に、自然環境保全ゾーンを配置。



小学校社会科見学の受入について

那覇港管理組合では、港湾事業者の協力の下、物流の仕組みや港で働く人たちの仕事を紹介するため、令和4年5月に那覇市立神原小学校（3年生）、令和4年11月に豊見城市立とよみ小学校（5年生）、令和4年12月に那覇市立曙小学校（5年生）、令和5年2月にうるま市立具志川小学校（5年生）の社会科見学の受入を実施しました。

県内における那覇港の役割やRORO船の船内見学、那覇港物流センター冷凍庫内や国際コンテナターミナルの様子など、普段は体験できない港の仕事等に触れ、小学生たちは目を輝かせて見学していました。

当組合では引き続き、那覇港への理解と港湾事業者等の人材育成等に繋がる取組を実施していきます。

<見学会の様子>



那覇港や港の役割について、説明を聴く小学生たちの様子（那覇クルーズターミナル）



物流センターの仕組みや冷凍倉庫内体験の様子



国際コンテナターミナルを見学する様子



港運の仕事の説明や船内見学の様子

約3年ぶりにクルーズ船の受入を再開！

コロナ禍で国内外からのクルーズ船寄港が途絶えていましたが、令和5年1月2日(月)乗客 321 名を乗せたクルーズ客船『ぱしふいっくびいなす』が那覇クルーズターミナルへ寄港し、約3年ぶりに那覇港における国内クルーズ船受入が再開しております。

到着後、船から降りてきた乗客は、大型バスに乗り換え斎場御嶽・識名園・首里城などの世界遺産巡りのツアーに参加する人や、波上宮へ初詣に出かける人など、それぞれ沖縄観光を楽しんでいました。

同船を運航する日本クルーズ客船(株)は、客船事業の終了を発表しており、今回が那覇港への最後の寄港となりました。那覇港管理組合では、入港時にお出迎えを行い、同日夕方の出港前には、大型モニターでこれまでの寄港への感謝動画を流した他、那覇太鼓の元気いっぱいな子供たちによる創作エイサーを披露するなど、お見送りセレモニーを開きました。デッキや窓から観賞した乗船者から大きな拍手を受け、出港の際には、見学に来た市民の皆様や関係者で別れを惜しみました。

また、3月9日(木)には、『ウエステルダム』が寄港を果たし、外国クルーズ船の受入を再開しました。これを皮切りに外国クルーズ船の受入を順次再開していくこととなります。

那覇港では、引き続き、クルーズ船の安全・安心な受入体制を確認しながら、国内外のクルーズ船の寄港回復に取り組んでいきます。



(那覇港への入港の様子)



(入港時のお出迎え)



(創作エイサーによるお見送り演舞)

「沖縄大交易会 2022」にて PR ブースを出展しました！

沖縄コンベンションセンターにて、令和4年11月24日、11月25日の2日間開催された「沖縄大交易会 2022（リアル商談会）」へ、那覇港管理組合・那覇港振興協議会・那覇国際コンテナターミナル（株）・（株）那覇港総合物流センターの那覇港に関係する4者合同でPRブースを出展しました。

当日のリアル商談会には、2日間でサプライヤー195社、バイヤー150社、PRブース22社が参加しました。

那覇港管理組合からは、那覇港港湾施設の概要及びサービス、航路情報、支援制度等の紹介を行い、PRブースを訪れた企業からは、海外輸送に向けて那覇港が実施する支援制度の活用を検討したいという声や、コンテナターミナル及び物流センターの施設やサービス等に関する質問など、活発な意見交換を行いました。

那覇港管理組合では、引き続き関係機関と連携し、外貨貨物の増大や那覇港を利用した輸送効率化の促進などに向け取り組んで参ります。

※沖縄大交易会とは・・・

沖縄の国際物流拠点化（国際物流ハブ化）を促進することにより、日本全国の特産品等の海外販路拡大に資することを目的とした日本最大級の「食」がテーマの国際食品商談会のこと。



（那覇港管理組合・那覇港総合物流センターのPRブース）



（会場全体の様子）



（那覇国際コンテナターミナル・
那覇港振興協議会のPRブース）

新たなクルーズバスについて



第 2 クルーズバスが令和 5 年 2 月 1 日 に供用開始されました。

那覇港では、これまで 17 万トン級を超えるクルーズ船の受入や複数船舶が同時に寄港した際にはクルーズ専用岸壁の泊 8 号岸壁のみでは対応ができないため、貨物岸壁である新港ふ頭 9 号壁などで暫定的に受入を行っていました。旅客ターミナル施設がない貨物専用岸壁でのクルーズ船受入は、CIQ の検査体制や旅客の安全性確保、大型バスの待機場確保等に課題があったことから、新たなクルーズ専用岸壁及びターミナルビルの整備が求められてきました。

これらの課題解決に向け、那覇港では平成 31 年 4 月に国土交通大臣より『国際旅客船拠点形成港湾』の指定を受け、国の沖縄総合事務局那覇港湾・空港整備事務所が岸壁及びターミナルビル用地等、当組合はバス及びタクシー駐車場等の関連施設の整備を行ってきました。今後は、連携船社によるターミナルビルの整備、運営が予定されています。

第 2 クルーズバスの供用開始が、「質の高いクルーズ観光の推進」につながるものと期待しております。

那覇港湾内での不発弾処理について

令和4年に那覇港内の各種工事現場で7発の不発弾が見つかり、令和4年12月22日に、那覇新港ふ頭10号岸壁沖合約700mで処理されました。

当日は、海上自衛隊沖縄基地隊、那覇海上保安部、沖縄県、那覇港管理組合、那覇警察署、浦添警察署、浦添市、那覇市からなる不発弾処理現地対策本部が設置され、処理現場から半径300mは船行・停泊禁止、



半径3,000m以内は潜水・遊泳禁止の措置がとられました。

那覇港管理組合は、港湾関係事業者への事前広報及び周辺沿岸の陸上警戒にあたりました。